

ナバリスト 23

中川 久美子 さん

名張市社会福祉協議会
なばり暮らしあんしんセンターあなたの不安に
寄り添います

なかがわくみこ ● 大阪出身で、結婚を機に名張へ移住。大学卒業後は営業職で数字に追われる毎日だったが、もっと人の幸せを求める仕事がしたいと社会福祉協議会へ転職し、社会福祉士の資格を取得。とことん相談者に寄り添える相談支援業務に天職を見出す。現在は主任相談支援員として、生活に困難を抱える一人ひとりに寄り添い、その人らしい自立した生活に向けた支援に日々尽力している。

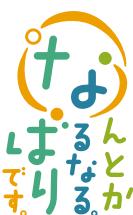
面談や雑談の中から、悩みの原因や
その人の得意なことを見つける関係機関との連携は不可欠。市役所には
頻繁に訪れ、担当者と情報交換をする20代の頃はバックパッカーで世界を旅し
て、現地の人とのふれあいを楽しんでいた

あなたらしい人生に伴走したい

私たちの仕事は、困りごとを「解決してあげる」ことではありません。相談者の抱える課題や背景を整理して、解決方法を「一緒に考える」。その人らしい生活に向けてサポートするのが、私たちの役目です。その人にあった支援が必要なので、マニュアルがないことは、やりがいがあり難しさもあります。行き詰った状況をどう解決するか、本人と一緒に必死に考え、その過程に寄り添う。本人が自分の人生に向き合い、一歩踏み出せるのが喜びです。とはいえ、一人でやれることは限られているので、職場のチーム力や関係機関と密に連携し合える体制があつてこそ、良い支援ができるのだと思っています。

私のモットーは、「心は熱く、頭は冷静に」。その人を思うあまり、「こうした方がいいのに」と無意識に自分の価値観を押し付けないように心がけています。「どんな人生を歩みたいのか」を冷静に聴き取り、周囲の環境なども考慮しながら、熱意を持つてサポートできるような支援員を目指しています。特に、就労支援で見逃さないようにしているのは、面談などで話をしている時に、表情が変わる瞬間。本人も気づいていない強みを見つけられた時、とてもやりがいを感じます。

生活困窮は決して他人事ではありません。私も身も、就職氷河期や家族の病気で働き方が揺らぎかけた経験があります。今は偶然働けているだけで、今後は分からない。だから、現在働けていない人を「根性がない」と排除しない社会にしていきたいんです。歳を重ねても、ひきこもり状態にある人も、障害がある人も、誰もがその人らしく暮らせる、あつたかい名張であつてほしいですね。



名張のひと・活動

編集後記

「誰でも歯車がすれたら生活が回らなくなる」と聞き、ドキッとした。今は偶然生きているだけ、明日は我が身かも…。でも、そんな時に隣で支えてくれる人がいるのは安心ですね（はる）

ガイドの得意なことを重ね合わせて企画したという工コツア。春の陽気をいっぱいに浴びる予定を入れば、きっと寒い冬もワクワクしながら越せるはず。ぜひご参加を（はな）

「こんなに深く考えてくれていたなんて」。梅澤さんの言葉に涙ぐむ中川さん。どんな理想も仲間がないと広がりません。情熱を受け取った人が、さらに誰かに渡す循環が生まれるといいですね（たか）



市HP